

■九州朝日放送番組審議会議事概要（2月分）

第590回	九州朝日放送番組審議会 議事概要
開催年月日	平成29年2月20日（月） 午後3時30分～5時00分
開催場所	九州朝日放送 本社役員会議室
出席者	<p>委員総数 8名 出席委員数 7名 欠席委員 1名（レポート提出）</p> <p>（出席委員） 古宮洋二副委員長、野田幸之輔委員、 池田勝委員、安恒万記委員、井手雅春委員、 鶴 利絵委員、三好京子委員</p> <p>（放送事業者側出席者名） 代表取締役社長 和氣靖 専務取締役編成制作局長 半田俊彦 取締役ラジオ局長 清水透 報道局長 松延健次 ラジオ編成業務部長 木附ゆかり ディレクター 平野蘭子 視聴者・広報室長兼番組審事務局長 久芳康治 事務局員 都合信司、松田泰久</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. <KBCラジオ特別番組> 「歌え若者～ラジオから生まれた音楽たち～【完全版】」 <放送日>1月2日(月) 午後7時00分～9時00分 2. 平成29年2・3月度ラジオ・テレビ番組編成状況 3. 平成29年1月視聴者・聴取者応答状況の報告 4. その他
議事の概要	<p>◎委員の意見（概要）</p> <p>委員からは</p> <ul style="list-style-type: none"> ○昭和44年にアマチュア音楽の登竜門として「歌え若者」を立ちあげた岸川均氏の「没後10年」を機に当番組を企画制作したのは、当時の証言や資料が減っていく中で良かったのではないかと。 ○当時の福岡の音楽シーンにあって、若い才能を発掘し続けた岸川均ディレクターの多大な貢献、またメディアとしてのラジオの魅力を再認識した。 ○ラジオの音楽番組に出演すること自体が大変な当時、オーディションなしにハガキの先着順に実力が不明な若いアーティストを出演させた懐の深さに驚いた。 ○自社のOBである岸川氏のみならず、福岡の歌う若者たちを支えた他局の名物ディレクターも公平に取り上げていて良かった。 ○ラジオは言葉のメディアであり、パーソナルなメディアだと思う聴取者はメッセージを自分で色々と考え、消化することができる。今回、その事を新鮮に感じた。 <p style="text-align: right;">などの評価を頂きました。</p> <p>また、気になる点や望むこととしては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○番組は当時の世代にとっては懐かしいがマニアックな番組だと思う。社内のどの部門、世代から企画が出てきたのか。 ○当時、番組を始めるにあたりかなりの抵抗もあったと思うが、どのように始まったのか。 ○岸川さんをを超える素晴らしい人材が出てくることを期待している。 <p style="text-align: right;">などの批評や提言を頂きました。</p> <p>これらに対して、担当者から、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○後輩に対して岸川さんは仕事に厳しく、常々「番組企画書を出しなさい」と言っていた、演歌であれ何であれ、ジャンルを問わず音楽を愛する人は大事な人であり、リスペクトに値するという考えだった。 ○昨年10月に90分版を放送したところ多数の好意的な反響があり、今回の2時間版の放送に至った。 ○番組ラストの「今の若者は自分の言葉を持っているか」は岸川さんが言いたかったことではないかと思う。 ○地方局でもこのような音楽番組を作れる、との発信性を社のDNAとして残していきたい。 <p style="text-align: right;">などの説明をしました。</p>